

**館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業
審査結果及び講評**

令和 3 年 5 月

**館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業
事業者選定委員会**

館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業（以下「本事業」という。）に関して、審査基準書に基づき、企画提案内容の審査を行いましたので、審査結果及び講評をここに報告します。

令和3年5月

館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業 事業者選定委員会
委員長 和田 修

1. 審査の経過等

(1) 審査の経過

館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業 事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）では、館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業における最優秀提案者の選定について、次のような経過で審査を行った。

区分	日時	内容
第1回選定委員会	令和3年4月22日～23日	審査要領について説明 ※事務局による個別対応
第2回選定委員会	令和3年4月28日	プレゼンテーション 提案内容の審査 審査結果の確認

(2) 参加表明書及び企画提案書を提出したグループ事業者の数

令和3年2月1日に本事業に係る募集要項等を公表し、参加表明書受付期限を令和3年3月5日、企画提案書受付期限を令和3年4月14日として受け付けした結果、1グループから参加表明書及び企画提案書の提出があった。

2. 審査結果

(1) 参加資格審査（事務局による審査）

応募1グループの参加資格について、参加表明書等により審査を行い、募集要項に規定する参加資格を満たしていることを確認し、令和3年3月12日、応募1グループに対して参加資格審査の結果を通知した。

(2) 提案審査

①基礎審査（事務局による審査）

応募1グループからの企画提案について、審査基準書に基づき基礎審査を行い、審査基準書に規定する条件を満たしていることを確認した。

②定性審査・価格審査

(ア) 定性審査（プレゼンテーション審査 審査員による企画提案内容の審査）

選定委員会は、令和3年4月28日、応募1グループによるプレゼンテーション及び審査員によるヒアリングを実施し、審査基準書に基づき、以下の評価項目及び採点基準により審査を行い、各審査員において最終評価ランク（A～F）を決定して採点をした。

【定性審査の評価項目及び配点】

評価項目	配点
事業計画に関する事項 (事業コンセプト・基本的な考え方、ジビエ加工処理施設の機能概要、地域振興への貢献、事業実施体制、事業スケジュール、収支計画の妥当性)	100
設計、建設工事、工事監理、設備機器・什器・備品等の調達設置に関する事項 (基本的な考え方、実施体制、施設計画)	100
維持管理に関する事項 (基本的な考え方、実施体制、建築物・設備機器・什器備品等の保守管理計画、施設の衛生管理)	50
運営に関する事項 (基本的な考え方、運営体制、地域産業・地域活性化への貢献、運営業務)	150
定性審査の合計配点	400

【定性審査の採点基準】

評価ランク	評価内容	採点基準
A	提案内容が特に優れている	配点×1.0
B	提案内容が優れている	配点×0.8
C	提案内容がやや優れている	配点×0.6
D	提案内容が中庸である	配点×0.4
E	提案内容が劣っている	配点×0.2
F	提案されていない	配点×0

(イ) 価格審査（事務局による審査）

価格審査は、企画提案書に記載された提案価格を基に、以下の項目について、審査基準書に規定する価格評価点の計算式に基づいて審査を行い、評価点を算出した。

【価格評価点の評価項目及び配点】

区分	配点
施設整備費	40
指定管理料	40
納入金	20
価格審査の合計配点	100

③審査結果

定性審査における6名の審査員の合計得点の平均点を算出し、これに価格審査における評価点を加え、総合評価点を算出した。

区分	配点	応募者
定性審査の評価点	400点満点	307.50点
価格審査の評価点	100点満点	100.00点
総合評価点	500点満点	407.50点

以上の審査結果より、選定委員会は応募1グループを最優秀提案者として選定した。

④応募者（最優秀提案者）

グループ名 合同会社アルコ・有限会社湯澤建築設計研究所・株式会社小野寺建築 JV
代表事業者 合同会社アルコ
構成事業者 有限会社湯澤建築設計研究所
株式会社小野寺建築

3. 審査結果の総評

応募1グループの提案は、事業の目的やコンセプトを十分に踏まえ、市の要求水準を満たし、設計、建設工事、工事監理、設備機器・什器・備品等の調達設置、維持管理、運営の各業務において応募者の有するノウハウやアイデアが活かされた優れた提案であった。

なお、最優秀提案者として選定した応募1グループは、以下のような点が高く評価された。

- ①ブランド化の取り組みについては、地域の特性を踏まえた具体的な手法が提案され、館山ならではのジビエのブランド化が期待できる。
- ②維持管理・運営面においては積極的にIT技術を導入することで品質が確保されるなど、全国的にモデルケースとなることを目指すもので、有害鳥獣対策において新たなステージとなることが期待される。
- ③担い手育成については、移住者と地域の捕獲者とのマッチングなど、応募者のこれまでの幅広い活動実績を活かした具体的な提案がなされ、地域への貢献が期待できる。
- ④加工残渣については、骨や皮の有効活用などの提案があり、地域産業の活性化への貢献が期待される。
- ⑤提案内容は、業務全般にわたり、応募者のこれまでの活動実績やノウハウが生かされている。また、応募者は有害鳥獣対策やジビエについて知見が深いだけでなく、取組みに対して、とても熱意が感じられ、地域への貢献が期待できる。

なお、本事業は、食のまちづくりの一環であり、応募者だけに事業を担ってもらうのではなく、市と応募者でしっかりと協力体制を築き事業推進していくよう選定委員会として要望する。

●館山市「ジビエ加工処理施設」整備事業 事業者選定委員会 委員 ※順不同・敬称略

No.	役職	氏名	備考
1	館山市経済観光部長	和田 修	委員長
2	館山市経済観光部農水産課長	千原秀樹	副委員長
3	館山市経済観光部農水産課有害鳥獣対策係長	黒川大治郎	
4	館山市参与	矢尾雅義	
5	有害鳥獣対策協議会 会長	森下茂一	
6	館山商工会議所 事務局長	盛島 岳	